種名	ケ　ヤ　キ Zelkova serrata 				
分類	被子植物双子葉離弁花類 ニレ科 ケヤキ属	俗称		別名	ツキ
分布	本州、四国、九州、朝鮮、中国、台湾				
形態	ケヤキは日本の代表的な広葉樹のひとつである。特に関東地方に多く、生育もよい。寿命の長い木なので、天然記念物に指定されているものも多い。文学や歌などによく登場する。また、木目が美しいうえに狂いがほとんどなく、湿気にもよく耐え、保存性が高いので用途が広い、特に社寺建築、臼、盆、漆器などに賞用される。 普通高さ20～25mになるが、高さ50m、直径5mに達する巨木もある。樹皮は灰褐色で、老木になると鱗片状にはがれる。樹冠は扇をなかば開いたような円形状になる。枝は暗褐色で細くて屈曲し、細かい白色の軟毛がある。葉は互生し、長さ2～7cmの卵形または卵状披針形で質はやや薄い。先は鋭く尖り、基部は円形またはやや心形で、ふちには鋭い鋸歯がある。表面はやや光沢があってざらつき、裏面は淡緑色。花は4～5月に開く。雄花は淡黄緑色で小さく、本年枝の下部の葉腋に数個づつ集まってつく。萼は深く4～6裂し、4～6個の雄しべがある。雌花は本年枝の上部の葉腋に1～3個つき、退化した雄しべと1個の雌しべがある。花柱は2裂する。果実は長さ4～5mmの平たいゆがんだ球形で、稜があってかたい。10月頃に暗褐色に熟す。				
類似種					
生育場所	山野に自生するほか、庭木、公園樹、街路樹として植えられている。				
繁殖					
他生物との関係					
配慮のポイント					
トピック					
その他					
用途	庭木、公園・街路・防風樹、建築・器具・楽器・彫刻材				
	引用文献:『山渓カラー名鑑　日本の樹木』を改変				